



気軽に読書本と仲良し

雨と太陽テーマ 津高で青空図書館

津市新町の津高校で二十三日、中庭に本を並べて貸し出す「青空図書館」が開かれた。生徒に気軽に本に触れてもらおうと、同校の図書館が二〇一八年から続けている恒例行事。昼休み時間に生徒や教員が集まり、本を手にして楽しんだ。軽快な音楽を流し、移動式本棚に約百二十冊の本を並べる。今回は梅雨の時期を前に「雨と太陽」がテーマ。雨や太陽などにまつわる小説や詩集、研究書を中心にそろえた。二十四日も開かれる。

司書の井戸本吉紀さん（四〇）は「空や雨にまつわる本を読んで、季節を楽しんでほしい」と期待する。雲について図解した本を手にした二年の青木志友さん（二〇）は「昨夜（二十二日）は雷が鳴っていて、雲の仕組みが気になった。いづれ借りたい」と話した。

同校の図書館は青空図書館などの取り組みが評価され、本年度の「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受賞している。（坂田恵）

中庭に並べられた本を手にとる生徒たち。津市新町で